

ランチオンセミナー24

自己免疫性自律神経節障害： 今、われわれがわかっていること

Autoimmune Autonomic Ganglionopathy

従来、急性汎自律神経異常症はギラン・バレー症候群と類似した病態機序が推測されてきた。しかし2000年に特発性自律神経ニューロパチー症例血清において自律神経節アセチルコリン受容体 (gAChR) に対する自己抗体が検出されることが報告された。これ以降、自己免疫性自律神経節障害 (AAG) という疾患概念として研究が進められ、抗gAChR抗体がAAGの病原性自己抗体であることがすでに報告されている。我々は2012年1月にルシフェラーゼ免疫沈降法による抗gAChR抗体測定を本邦で初めてスタートし、日本におけるAAG症例の臨床像に関する調査に努めてきた。

そのなかでAAGの臨床経過、自律神経症状の出現パターン、自律神経系外の症状 (中枢神経系障害、感覚障害、内分泌障害) や併存症 (膠原病、腫瘍など) からheterogeneityを把握しつつある。逆に各種膠原病において潜在的に抗gAChR抗体陽性症例が存在することも突き止めている。こういった「多様性」が本症の診断のしにくさ、そしてしばしば難治化に繋がると考えている。

我々は現在、

- 1) 自己抗体の病原性と免疫病態の検証
- 2) AAGの病態モデル開発
- 3) 小児AAG症例、膠原病における抗体陽性症例における臨床像解析

を専門分野横断的に試みている。こういった作業の積み重ねが診断基準作成、治療ストラテジーの確立に貢献すると考えている。

日時 2020年9月1日(火) 12:30~13:30

会場 第10会場 (岡山県医師会館)

本会共催セミナーは整理券制 (当日配布) となります。
配布場所・配布時間は抄録でご確認ください。

座長 神田 隆 先生

山口大学大学院 医学系研究科 臨床神経学講座 教授

演者 中根 俊成 先生

熊本大学病院 分子神経治療学寄附講座(脳神経内科) 特任教授